

兔道お花より

兔文

いれおし日夜をゆるる葉橋唄

人の心のまこと

吹

其成

鬼舟よ山吹衣うちまきて

眉山

舟さしとくすおのえの

香臍

月影のしろんちうくぬきま

本

高もこぬまきる松栢の葉

文

未略

唐紙や春か風おきまの月

暮臍

鳥こもりのまきりお鮎の股

兔文

よ中やまおふりる風の目

其成

中の中葉一様ふを厚ひそかると

眉山

雨の芥子ちうくも土ふんえり

閑更

寛政二成ノと

京書

